



防災カフェ ☕ ー冬の立ち往生に備えてー

2月4日は暦上で春が始まるとされる立春ですが、徐々に暖かくなる九州地方等と比べ北海道では、一年のうちで最も積雪量が多く、厳しい寒さや大雪、暴風雪に対する警戒が必要な時期となります。昨年も札幌市や千歳市などで統計開始以来の積雪量となり、各種交通機関に大きな混乱を招きました。突発的な大雪による影響のひとつとしては、国道などで車が前に進めなくなる立ち往生が挙げられ、場合によっては車中泊を余儀なくされることがあります。

車中泊の際、採暖のために車のエンジンをかけ続けると、マフラーが雪で塞がり、一酸化炭素を含む排気ガスが車内に取り込まれて一酸化炭素中毒を引き起こす危険性が高まります。車中泊では、エンジンをかけないのが原則で、万が一、エンジンをかける場合にはこまめにマフラー周辺の除雪を行う必要があります、そのためのスコップはもちろん、エンジン停止時の採暖のための毛布、使い捨てカイロ等を準備しておきましょう。特に、最近では、水を使用してレトルト食品などを温めることができる商品もありますので、厳寒時の低体温症予防として車に常備しておくことをお勧めします。

長時間の立ち往生では、エコノミークラス症候群の予防も重要です。歩行などの運動や下肢のマッサージなどが有効となりますが、弾性ストッキングの着用でも代用できます。また、トイレに行きたくないからと水分補給を控えてしまうことは、エコノミークラス症候群のリスクを高めてしまいますので、車内で使用できる簡易トイレを準備しておくで安心です。



なお、車内で体をのばせるスペースをつくるのが重要ですが、マフラーが塞がる心配がなく、エンジンを切らずに運転席で睡眠を取った場合、無意識なアクセルの踏み込みによるエンジンの損傷や、車両火災の危険性がありますので、後部座席を倒すなどによりフラットな場所を確保できるよう車の取扱説明書などを確認しておきましょう。

冬は天候急変により予想できない事態に巻き込まれることもあります。備えあれば憂いなし。準備を万全にしてお出かけしましょう。

●詳細 危機対策係 ☎27-7058

ガソリンや灯油、軽油の取扱いに注意しましょう

ガソリンなどの危険物は、運搬や貯蔵、取扱いの方法を一步誤れば、火災や爆発などの大きな被害を及ぼす可能性が潜んでおり、危険物火災が発生すると、短時間で延焼拡大し、消火もきわめて困難になります。

したがって、ガソリンや灯油、軽油を運搬、貯蔵、取扱いする場合には、性能試験に合格した容器を使用するようにしてください。灯油用ポリ容器にガソリンや軽油を、軽油用のポリ容器にガソリンや灯油を入れると、変質、変形の原因となり、漏えいする危険性も高まり、火災の原因となるおそれがありますので、絶対に他油種に使用しないでください。

■ガソリン／試験確認済証などの表示が付いた、ガソリン携行缶を使用してください。

なお、乗用車等で運搬する場合は、22リットル以下の容器で運搬してください。

■軽油／灯油用の性能試験に合格したポリ容器の使用はできません。軽油用として性能試験に合格したポリ容器がありますので、適合表示が付いたものを使用してください。また、ガソリン携行缶も使用することができますので、その際には必ず容器に「軽油」と表示してください。

■灯油／灯油用の性能試験に合格したポリ容器を使用してください。試験に合格したものは危険物保安技術協会、日本ポリエチレンブロー製品工業会等の表示が付いています。

●詳細 芦別消防署保安係 ☎22-3106